

展覧会について

京焼・清水焼の絵付け師であった故 河野仁 (1932-2019) の遺作展。

テーマは『春』。

4月、5月 (5月から一部展示替え予定)

展覧会コンセプト

桜や雲錦、5月に入ると菖蒲などの器を展示予定。展覧会を見に来てくれた人たちに春という季節を感じてもらえたらと企画しています。

会場について

河野仁の工房であった東山区の長屋を改装し、建物の2Fを展示会場としています。

色絵という技法

今回展示されている器は、色絵 (過去、上絵と呼ばれていた技法ですが、現在は色絵と呼ばれています) という技法で描かれています。器が出来上がるまでの流れは、素焼きに上薬 (釉薬) をかけて、焼いたものに絵付けをするのが色絵付け。色絵付けをした後、窯に入れ、760度程で焼く。(金など金属で絵付けを施した場合には、もう少し低温で焼く)

補足

雲錦について

満開の桜を白雲に、色づいた紅葉を錦織に見立てた言葉。春と秋に使える京焼の代表的なデザインの1つ。

素焼きについて

土を成形し、窯に入れ、750~950度程で焼いたもの。

色絵の具について

主に「顔料」と呼ばれる鉱物 (金属) 系の個体粉末と、定着や光沢のために必要なガラス成分が含まれています。

展覧会企画、展覧会はがきデザイン: たにぐちあゆこ

作品提供、企画サポート: 谷口えり子